

特定非営利活動法人日本消化管 CT 技術学会
第一回 CT Colonography Webinar に参加して

小樽掖済会病院 平野雄士

日本消化管 CT 技術学会は 2010 年より消化管 CT 技術研究会として活動してきて今年で 10 年になります。昨年学会に名称変更を行い、10 月には NPO 法人として法人格を取得し、年度末には学会誌第 1 号（通期 18 号）を発刊することができました。少しずつ体制整えているところです。今年 6 月 13 日に第 19 回の総会学術大会を大阪で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で学術大会は来年に延期となり、WEB を用いて総会のみを行いました。その時、ZOOM を使って会議を行ったのですが、意外とうまくいった印象があり、それが今回のセミナーに繋がっております。

当会は消化管の CT とくに大腸 CT 技術に関する情報発信、情報交換を学会の主目的にしているため、学術大会の代わりとなる方法を模索していたところ、今回エーザイ株式会社のご協力もあり、WEB セミナーを開催することができたのでその報告をさせていただきます。

2020 年 7 月 17 日（金）18 時 30 分第一回 CT Colonography Webinar スタートです。

今回は決まった会場で配信するのではなく、司会や演者、すべての参加者が各職場や自宅でのパソコンやタブレット端末での参加です。私は司会をしたのですが、もう一人の司会である小倉敏裕先生との打ち合わせが十分でなく、ほとんどお任せ状態になってしまいました。全般に言葉を発するとき相手の話を遮るようになってしまうのが気になり、タイミングが難しいですね。

プログラムは最初に日本大腸 CT 専門技師認定機構の鈴木雅裕理事長から認定機構についての案内がありました。このコロナ禍で認定講習や試験の準備をどんどん進めています。立派です。認定講習についてはこちらをご参照ください。

<http://ctc-nintei.org/>

さて、シンポジウムに入ります。今回は腸管拡張を取り上げました。腸管拡張は診療放射線技師の腕の見せ所であり、画像の良し悪しを決める最も重要なポイントです。

先ず、済生会熊本病院の坂本崇先生より「適正な腸管拡張」の報告がありました。アンケートの結果を中心に報告がありました。

炭酸ガスの設定圧は一定にしているかと思っておりましたが、施設によりかなりバラバラの結果でした。機種により注入機構の違いもあるので、その影響かとも思いますが、もしかしてイイカゲンに決めているか？と思うとちょっと冷や汗です。

次は炭酸ガス自動注入器の取り扱いや注意点など、良好な腸管拡張を得るための基礎知識について済生会熊本病院の松田勝彦先生より解説がありました。自動注入器の使い方からカテーテルの使い方を分かりやすく丁寧に伝えていました。慣れてくると基本を忘れがちになり、時々誤った使い方をしているのに、うまくいかないことを商品のせいに行っていることがあります。気を付けましょう。

次に大腸専門技師認定機構の鈴木雅裕先生から腸管拡張の不良の原因の徹底解明について講演があり、解剖的な問題や憩室などの病気の問題、体位による変化などの症例を挙げ解説されました。

最後に山下病院の山崎通尋先生からは豊富な症例の中から拡張不良時における腸管拡張法の極意を講演されました。様々な状況下で、適切な対応が求められ、その時々を引き出しを多く持つことが必要と感じました。

シンポジウムでしたので、講演後の質問のほか、最後に総合討論を行いました。WEBではチャット機能等が使えるせいか、会場で行う場合に比べて質問が沢山ありました。いつもは気を使って質問しないのか？個別だと質問しやすいのか？討論としては大いに盛り上がったので、これはWEBのほうが良い点かなと思いました。

参加者は200人くらいだったようで、たくさん集まってもらえて感謝です。『災い転じて福となす』で案外楽しくできました。

今後も企画しますのでお気軽にご参加よろしくお願ひします。

第1回CT Colonography Webinar

鈴木 雅裕 先生 松田 勝彦 先生 小倉 敏裕 先生 平野 雄士 先生 山崎 通尋 先生 管理

上行結腸拡張不良

事前に予測できない事例

ポイント：2体位で盲点の有無を確認し，必要に応じて追加撮影を実施。

仰臥位 (Supine) 腹臥位 (Prone)

上行結腸肝彎曲側に
2体位共に拡張不良部分あり。

80代 女性

山下病院

ミュート解除 180 参加者 チャット 画面を共有 レコーディング Q&A 2 退出

第一回 CT Colonography Webinar 風景